

〔 編 集 後 記 〕

革新・激動の年とされる甲午の新年を迎えました。千葉医学会会員の皆様におかれましては新たな気持ちで新年に臨まれていることと存じます。

千葉医学雑誌第90巻1号には、総説1編，症例1編，研究紹介1編，話題1編，千葉医学会奨励賞論文1編，千葉医学会例会記録1編，Open Access Paper1編を掲載いたしました。

総説は、整形外科の岸田俊二先生によるロコモティブシンドローム（ロコモ）についての論文です。急速に増加する高齢者の多くが困っておられる運動器の変性疾患や外傷についての啓発とその予防の必要性を概説していただいております。

症例は単孔式腹腔鏡補助下に切除した，小腸には稀な狭窄型虚血性小腸炎に対する内視鏡治療の報告です。腹腔鏡補助下の内視鏡治療により，低侵襲で，術後の傷跡も軽微な治療経験が報告されています。

研究紹介では，開設後4年という若い心臓血管外科学教室における臨床，基礎研究について，松宮護郎教授が最近の研究状況を紹介されています。補助人工心臓が心臓移植までの繋ぎでなく，移植に代る治療になりうるかもしれない，また心臓リモデリングの進展機序を考えるうえで重要な意義を呈するかもしれないという興味深いお話でした。また，心筋再生治療は夢のある話で，是非，実現させてほしいものです。

話題では高野光司先生の「ゲッティンゲン大学における私の神経生理学講義」は今年の第1回，第2回に引き続き，3回目となります。高野先生がゲッティンゲン大学で生理学の講義をされた時の模様がvividに書かれており，学問に対する折り目正しさを感じ，興味深く読ませていただきま

した。単に講義の事のみでなく，ドイツの学校事情，お国事情が触れられており，時にハイネのエピソードありで，先生の造詣が深く博識であることが伝わってきます。特に，学問の系譜というものを考えさせられる文章です。

医学会奨励賞論文は第5回千葉医学会奨励賞を受賞された医学部6年藤井早紀子さんによる，Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS) の神経変性の原因遺伝子としてRNA/DNA結合タンパク質であるFUS/TLSの変異によるRNA代謝の異常の関与を探る仕事で，学生の方がここまで出来るのかという驚きを禁じえません。指導の先生と藤井さんの熱意を感じる論文と思われました。

第1257回千葉医学会例会報告として，消化器・腎臓内科学例会の記録が掲載されています。消化器腎臓内科の若い研修医達の発表の抄録で，各出張病院で遭遇した貴重な症例の記録です。千葉医学会としては各科とも例会を行っていただきたいと思っておりますが，例会として行わない科もかなり多くあるようです。是非，千葉医学会例会として行い，多くの方に千葉医学会の会員になっていただきたいと思っております。

Open Access Paperでは英文原著論文として整形外科の鈴木 都先生による原著論文が載っています。腰部脊柱管狭窄症を高気圧酸素療法によって治療するというもので，今後の進展が期待されます。

最後に本年も本学会の会員の皆様が，それぞれの立場で千葉医学の発展に一層寄与していただくことを祈念して，編集後記の結びとしたいと思います。

(編集委員 横須賀 收)